

講義ユニット名	腎臓	所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅰ
講義ユニット 責任者	まさき たかお 正木 崇生	所属	腎臓内科 (内線 6544)
		メール	masakit@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	どい としき 土井 俊樹	所属	腎臓内科 (内線 4522)
		メール	doitoshi@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義と演習を行う。		
概要	腎臓は尿を作り出すことで体内を一定の環境に維持するのみならず、血圧や貧血のコントロールも行っている。腎臓病は自覚症状を伴わないことも多いが、日本では1330万人が慢性腎臓病(CKD)患者と考えられ、末期腎不全のために32.5万人が透析療法を受けている。臨床医には腎臓病の早期発見、末期腎不全への進展防止、腎不全患者への対応が求められる。 本ユニットでは腎疾患の理解を深め、臨床医として必要な基本的知識を獲得することを目標とする。		
講義ユニットの 到達目標	<p>尿量・排尿の異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>尿量・排尿の異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>血尿・タンパク尿の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>血尿・タンパク尿をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>血尿・タンパク尿がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>高・低Na血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低K血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低Ca血症(原因疾患、症候、治療)を概説できる。</p> <p>高・低P血症、高・低Cl血症、高・低Mg血症を概説できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス(代謝性・呼吸性)の定義、病態生理と診断を説明できる。</p> <p>アシドーシス・アルカローシス(代謝性・呼吸性)の治療を概説できる。</p> <p>腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。</p> <p>糸球体濾過量(実測、推算)を含む腎機能検査法を概説できる。</p> <p>腎生検の適応と禁忌を説明できる。</p> <p>急性腎不全(急性腎障害)の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性腎不全(慢性腎臓病(chronic kidney disease <CKD>))の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性腎臓病<CKD>重症度分類を説明できる。</p> <p>慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル骨代謝異常を概説できる。</p> <p>透析導入基準(慢性腎不全)を説明できる。</p> <p>腎不全の治療(血液透析・腹膜透析・腎移植)を説明できる。</p> <p>急性糸球体腎炎症候群の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>慢性糸球体腎炎症候群(IgA腎症を含む)の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>急速進行性糸球体腎炎を概説できる。</p> <p>臨床症候分類(急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群、反復性または持続性血尿症候群)を概説できる。</p> <p>高血圧による腎障害(腎硬化症)を概説できる。</p> <p>腎血管性高血圧症を概説できる。</p> <p>尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。</p> <p>Fanconi症候群(腎性糖尿を含む)の概念、症候と診断を説明できる。</p> <p>急性・慢性尿細管間質性腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>糖尿病腎症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>ループス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>アミロイド腎症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>膠原病類縁疾患(血管炎症候群、抗糸球体基底膜(glomerular basement membrane <GBM>)病(Goodpasture症候群))の腎病変を説明できる。</p>		

	IgA血管炎（紫斑病性腎炎）を概説できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で60点とするが、得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超えた場合には平均点 $-1.5 \times$ 標準偏差を合格基準とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>「内科学」矢崎義雄（総編集）朝倉書店</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <p>「CKD診療ガイド2012」日本腎臓学会（編集）東京医学社</p> <p>「初学者から専門医までの腎臓学入門」日本腎臓学会編集委員会（編集）東京医学社</p> <p>「腎生検病理アトラス」日本腎臓学会/日本腎臓学会（編集）東京医学社</p> <p>「水・電解質と酸塩基平衡」黒川清（著）南江堂</p> <p>「腎臓のはなし」坂井建雄（著）中公新書</p>